

## 土砂災害に対する要配慮者利用施設の安全性の確保 ～山形市大字菅沢地内の事例～

★菅沢地区は山形市の西部に位置し、最大斜面高 40m、最大勾配 37 度の長大な斜面が存在する。斜面の表土は崩壊しやすい崩積土であり、植生も乏しい。降雨のたびに浸食が進行し、表層崩壊の危険性が高まっていた。

★斜面直下には病床数 312 床の要配慮者利用施設(24 時間入居型医療提供施設)があり、早急な対策が求められた。

★平成 25 年 4 月から急傾斜地崩壊対策事業を開始し、法面工、崩壊土砂防止柵工を施工した。

★土砂災害に対する対策がなされ、施設の安全が確保された。

### 事業概要

事業期間：平成 25 年 4 月  
～平成 29 年 3 月

事業費：約 1.5 億円

事業内容：崩壊土砂防止柵工  
L=96m

法面工  
A=1,911 m<sup>2</sup>



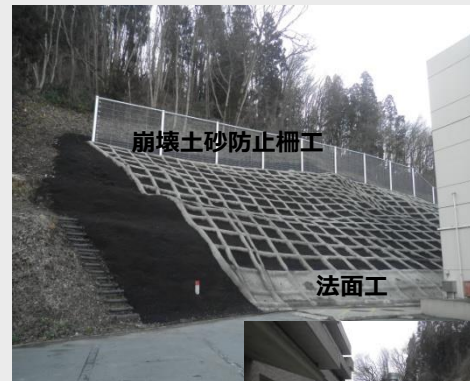
### 着工前



土砂災害が発生した場合、  
施設に甚大な被害が出る。



### 完成



対策工事完了  
⇒施設の安全確保

